

- 1 ゴウカなパーティーが催される。
ぜいたくではなやかなさま
- 2 山でのソウナンが絶えない。
災いにであうこと
- 3 レイサイな企業に援助の手を差し延べる。
きわめて規模の小さいさま
- 4 言葉のシヨウヘキを乗り越えて結婚する。
妨げとなるもの
- 5 スウコウな理念を抱く。
- 6 事のセイヒを見定める。
ただしいかそででないか
- 7 オクソクで話してはいけない。
いいかげんな推量
- 8 消化器のシツカンに苦しむ。
病氣
- 9 嵐のために船がテンブクする。
ひっくりかえること
- 10 姉の英語の発音はきわめてメイリヨウだ。
はつきりしていること
- 11 キユウヘイを打破する。
古くからの悪い考えやり方
- 12 ジャズではソツキヨウが重視される。
その場ですぐに詩や歌に表すこと
- 13 熱意にほだされコンガンを聞き入れる。
心から頼みねがうこと
- 14 『方丈記』に描かれた悲惨なキガの様子。
食へ物の欠乏でうえること

豪華 遭難 零細 障壁 崇高 正否 憶測 疾患 軋覆 明瞭 旧弊 即興 懇願 飢餓

- 「華」訓はな
- 「難」訓かた(い)むずか(しい)
- 「零」は「ゼロ」のこと
- 「障」訓障害
- 「崇」には「高い」「尊ぶ」という意味がある
- 「否」訓いな
- 「臆」訓とも書く
- 「疾」訓疾病
- 「覆」訓おほ(つ)くつがえ(る)
- 「目瞭然」は「一目見てよくわかるさま」
- 「古くさい習慣にとらわれているさま」という意味もある
- 「即席」は「その場」その場のまにあわせ
- 「懇」訓ねん(ころ)
- 「飢」訓う(える)「餓」にも「うえる」という意味がある

- 15 バイシン員制度が定着する。
一般人が判決に加わる制度
- 16 あまりにヒゲしすぎるのも嫌味だ。
へりくだること
- 17 衰えがちな士気をコブする。
励まし勢い上げること
- 18 自らの技量を日々ケンマする。
才能や心身をみがくこと
- 19 両者の意見をセツチュウする。
両方のよいところをとって調和させること
- 20 勝利のヨインに浸る。
事が終わった後に残る風情や味わい
- 21 啄木はヘイソクした時代の状況を憂えた。
とくされふさがること
- 22 カヘイに換算できないものも存在する。
商品交換の仲立ちとなるもの
- 23 小説の主人公に自らの思いをカタクする。
かこつけること
- 24 キジのままつきあえる友人を持つ。
うまれつきの性質
- 25 ホリヨになった体験を描いた戦争文学。
戦争で敵につかまった者
- 26 祖母が縁側で糸をツムぐ。
繭や綿などから繊維を引き出し糸にする
- 27 憤りのあまり相手をナグってしまった。
振りこぶしなで強く打つ
- 28 行き倒れになった人を手厚くホウムる。
死体や遺骨を墓所に埋める
- 29 なくてセクセ。
かたよった嗜好または習慣
- 30 大人だけがウソをつくわけではない。
いつわり

陪審 卑下 鼓舞 研磨 折衷 余韻 閉塞 貨幣 仮託 生地 捕虜 紡毆 葬癖 嘘

- 「陪」訓さい
- 「謙遜」
- 「鼓吹」
- 「研」訓と(ぐ)
- 「磨」訓みが(く)
- 「折中」とも書く
- 「韻」には「ひびき」という意味がある
- 「要塞」は「外敵を防御・攻撃するための堅固な建造物、とりで」
- 「弊害」の「弊」と混同しないように
- 「託」には「まかせる」「や」かこつける」という意味がある
- 「生糸」は「繭からとったままの絹糸」
- 「俘虜」「虜」には「とりこ」という意味がある
- 「類」訓類
- 「音」オウ「毆打」など
- 「事件を聞かせる」「は」事件を世間から隠す
- 「音」ヘキ「性癖」など
- 「嘘も方便」は「時には嘘も手段として必要である」

- 1 弱みを握られ、キヨウハクされる。
おどしつけること
- 2 運命にホンロウされる。
思っままにてもあそぶこと
- 3 歯並びのキヨウセイをする。
悪いところや欠点をなおすこと
- 4 自然に対してイケイの念を持つ。
おそれうやまうこと
- 5 ブッソウな事件が跡を絶たない。
きげんを感じるさま
- 6 採算をドガイシしたセール。
問題にしないこと
- 7 結局は最初の案にキチャクした。
議論などが最終的におちつくこと
- 8 彼の唱えた学説には重大なギギがある。
うたがわしい事柄
- 9 政治家の汚職をキュウダンする。
罪状や不正を問いただけて非難すること
- 10 敵のキトを見抜く。
さんもんくわだてること もくろみ
- 11 金木犀のホウコウに秋の深まりを覚える。
よいおかり
- 12 トウガイ事件の関係者に話を聞く。
いま話題になっていることそのもの
- 13 君主に対してキヨウジュンの意を表す。
こっしんで従うこと
- 14 遠くのシンセキより近くの他人。
血筋や縁組などでつながった一族

- 脅迫
 - 翻弄
 - 矯正
 - 畏敬
 - 物騒
 - 度外視
 - 帰着
 - 疑義
 - 糾弾
 - 企図
 - 芳香
 - 当該
 - 恭順
 - 親戚
- 「脅」おど(す) おびや(かす)
 - 「翻」ひる(がえる) 「弄」もてあそ(ぶ)
 - 「矯」た(める)
 - 「畏友」いゆうは「尊敬する友人」
 - 「騒」さわ(ぐ)
 - 「白眼視」はくげんしは「人を冷たい目で見ること」
 - 「帰する所」かきつくところ 結局けつごという意味
 - 「擬」ぎや「議」ぎと混同しないように
 - 「弾圧」だんあつは「権力でおさえつけること」
 - 「企」きくわだ(てる)
 - 「芳」ほうかんば(しい)
 - 「当該」たうがいは「当該官庁」などのように名詞の上につく言葉である
 - 「恭」こううやうや(しい)
 - 「親戚」しんせき

- 15 曾祖父がキトクだという電話がある。
病気が重く、命があやういこと
- 16 料理の腕前では他のツイズイを許さない。
あつをおうこと
- 17 解決困難な問題がセイキする。
事件や問題がおこること
- 18 競技会で新しい技をヒロウする。
広く発表すること
- 19 ジョウマンな文章は読む人を退屈させる。
むだが多くまとまりのないさま
- 20 ソウメイな少女が活躍する推理小説。
頭の働が鋭いさま
- 21 環境保護に関する条約がヒジュンされる。
条約を主権者が最終的に確認する手続き
- 22 資本家から労働者がサクシユされる。
労働の成果を奪い取ること
- 23 時計の音だけが聞こえるカンジャクな夜。
ひっそりとしていてさびしいさま
- 24 相手陣営が新人候補をヨウリツする。
もりなてて位につかせること
- 25 ヨクヨウをつけて読む。
調子の上げ下げ
- 26 ハルか遠くに見える山並みを仰ぐ。
遠く隔たるさま
- 27 一寸先はヤミだ。
先の見通しのつかないこと
- 28 身勝手な言動をツツシむ。
過ちがないように控えめにする
- 29 銀食器を丹念にミガク。
こすって光沢を出す
- 30 身勝手さを思い知り自己嫌悪にオチイった。
悪い状態になる

- 危篤
 - 追随
 - 生起
 - 披露
 - 冗漫
 - 聡明
 - 批准
 - 搾取
 - 閑寂
 - 擁立
 - 抑揚
 - 遙
 - 闇
 - 慎
 - 磨
 - 陷
- 「重篤」じゅうとくは「病状がひどく悪いこと」
 - 「随」ずいには「したがう」という意味がある
 - 「生まれ、起こる」と覚えよう
 - 「披露」ひろうは「心の中の考えを隠さず打ちあけること」
 - 「緩慢」くわんまんの「慢」と混同しないように
 - 「聡」そうには「さどく賢い」という意味がある
 - 「准」じゆんには「認める」「許す」という意味がある
 - 「搾」さつしほ(る)
 - 「寂」じやくさび(しい)
 - 「擁」ようには「だきかかえる」という意味がある
 - 「抑」おさおさ(える)
 - 「揚」ああ(げる)
 - 「遥かに大きい」はたいそうかけ離れているさま
 - 「闇から闇に葬る」は表ざたにしないで処理する
 - 「酒を慎む」は「酒をひかえる」「腕を磨く」は「腕前を上達させる」
 - 「窗」まどかん「陥没」おぼなど